



2007年1月柳澤厚生労働大臣が「女は産む機械」と発言したことに見られるように、女性の「性と生殖の自己決定権」=リプロダクティブ・ヘルス・ライツへの理解はまだ不十分です。それはまた、男女共同参画社会基本法を骨抜きにしようとするバックラッシュの動きとしても表れています。

また、妊婦の緊急受け入れ先が見つからず亡くなる事故が増えています。助産師の活用が遅れていることと、過酷な勤務体制に産婦人科や小児科の医者のみならず手がいけない状況が広がっているからです。とくに地方都市の医者不足は深刻で、病棟を閉鎖するところも出ています。私たちは「身近な地域で、安心して産める場所をつくれ」と署名活動を始めています。



いのちと暮らしを守る (下)



2011年3月11日東日本大震災による津波被害は東北3県の太平洋側に甚大な被害をもたらしました。避難所で過ごすをえなかつた女性への配慮不足が懸念され、ジェンダー視点からの取り組みにも協力しました。

東日本大震災にともなう福島第1原発の事故は収束の目途もたたないまま、放射能被害が広がっています。「さようなら原発1000万人アクション」に賛同し、ともに取り組みを進めています。また現地福島はもとより、各県でも、女性の視点からの、放射能測定、健康診断、給食の安全、除染、避難などの取り組みを進めています。